

## 東・東南アジアの数値地質図

脇田 浩 二<sup>1)</sup>

CD-ROMの形式で出版されたこの地質図(口絵)は、東・東南アジア沿岸地球科学計画調整委員会(CCOP)のプロジェクト「東・東南アジア地球科学図デジタル編纂第1期」(DCGM Phase I)の成果です。このプロジェクトは、1993年に発足し、1996年に終了しました。このプロジェクトには、カンボジア・中国・インドネシア・日本・韓国・マレーシア・パプアニューギニア・フィリピン・タイ・ベトナムの10ヵ国が参加しました。地質調査所からは、コーディネーターとして大久保泰邦(元:地殻物理部)、主編集者として脇田浩二(国際協力室)、技術顧問として野呂春文(元:地質情報センター)が参加し、基本設計、プロジェクトの遂行、技術支援などを行いました。

DCGMプロジェクトの主な目的は、次の4つです。

1. 東・東南アジア各国の地球科学情報を数値化して、データベースとして蓄積する。
2. 地理情報システムの利用により速やか、かつ確かな情報提供を可能にする。
3. 異なる種類の地球科学情報を関連づけて用いることによって、新しい知識・情報を形成する。
4. 地球科学情報のコンピューターによる処理や地理情報システムの利用、地球科学図の出版方式について技術移転を図り、東・東南アジア各国における地球科学情報の処理技術の向上を図る。

地質調査所は、このプロジェクトを通じて、CCOPが地球科学の分野でアジアの情報センターとなる手助けができればと考えています。また、アジア各国の地質調査所において地質図や各種の主題図を数値化し、数値データとして出版していく計画を手助けし、ともにこの分野を発展させていけることを願っています。

### プロジェクトの概要

DCGM Phase Iでは、様々な地球科学情報の基礎として、小縮尺地質図の編纂と数値化を行いました。プロジェクトの前半では、凡例を統一し、米国地質調査所が提供した縮尺200万分の1の地形図の共通基図の上に地質図を編纂しました。様々な縮尺に出力できる数値データであるのに、このCD-ROMで縮尺が1:2,000,000としてあるのは、この編集時の縮尺を表すためです。後半には、地質図の数値化の技術指導をCCOPと地質調査所が共同で行い、原則として各国の担当者が自国及びその周辺の地質図を数値化しました。

地質図は、各国で出版されているものの最新版か新たに編纂したものを用いました。凡例を統一するために、各国の地質区分についてお互いに話し合い、調整しました。また、各国の国境では、地質の境界について調整を行いました。折り合いがつかない場合は双方の見解を尊重し、国境に地質境界を設けました。このようにして得られた最終成果はCD-ROMという形で出版されました。このCD-ROMに含まれているデータは以下の通りです。

- ・ベクタ形式地質図データベース
- ・地質図画像データベース
- ・画像表示ソフトウェア
- ・本CD-ROMの説明ファイル

添付してある画像表示ソフトウェアGeomapAは、Windows95上で作動し地質図画像データベースを表示することができます。

CD-ROMに含まれているデータやソフトウェアについては、まだ不備な点が残されていますが、多くの問題点は、利用者がGIS上で処理することで解決できるものと考えています。多くの地球科学者がGISを手軽に利用できる時代はもうすぐそこまで来ています。

1) 地質調査所 国際協力室